

MURC Focus

イラン情勢緊迫化で問われる EU の脱ロシア戦略

～ロシア産ガスの禁輸措置を発動すればグローバルなガス価格の上昇に弾み～

調査部 主任研究員 土田 陽介

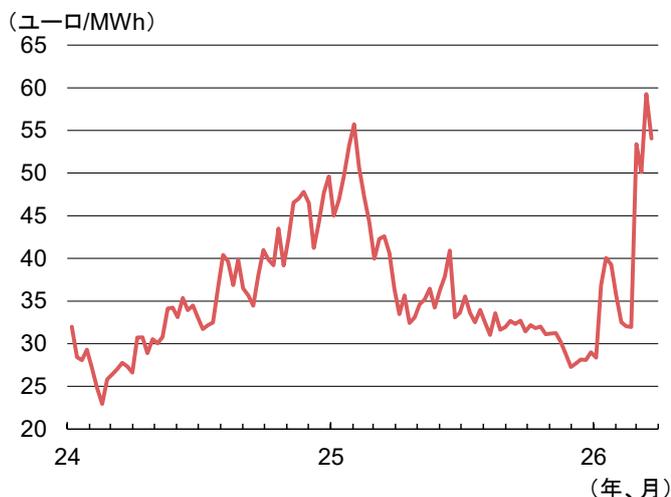
- EU はガス不足が長期化する可能性に鑑み、来冬の需要を見越した措置として、ガスの備蓄を前倒しで進めるよう加盟国に要請した。
- イラン情勢が早期に収束しても、グローバルなガス需給が緩和するか定かではない。そのため、EU がロシア産ガスの禁輸措置の発動を延期する展開が視野に入る。
- 対して、EU が予定通りにロシア産ガスの禁輸措置に踏み切れば、域内のガス価格が一段と上昇し、インフレが加速すると警戒される。

1. ガス不足に備える EU

イラン情勢の緊迫化に伴うグローバルなガス需給のひっ迫を受けて、欧州でも天然ガス価格が急騰している。指標となるオランダ TTF 先物価格は、メガワット時当たり 30 ユーロ程度から一時 60 ユーロを超えた(図表 1)。とはいえ、欧州連合(EU)の中東産ガスへの依存度は低く、2025年にEUが輸入した天然ガスのうち、カタール産は4%程度であるため、ガス不足が直ちに顕在化する状況ではない(図表 2)。

しかし EU は、ガス不足が長期化する可能性に鑑み、来冬の需要を見越した措置として、ガスの備蓄を前倒しで進めるよう加盟国に要請した。本来 EU は、毎年 11 月 1 日までにガスを容量の 90%まで備蓄することを加盟国に義務付けている。これを維持しつつ、加盟国の事情によっては 80%、さらに困難な場合は 70%でも容認するとし、とにかくガスの備蓄に努めるよう加盟国に求めている。

図表 1. オランダ TTF 先物価格



2. 問われる天然ガスの脱ロシア化との整合性

他方、EU はこれまでロシア産化石燃料の利用削減(脱ロシア化)を推進してきた。石炭や石油に関しては順調だったが、天然ガスに関しては進捗が限定的である(図表 3)。一方、イラン情勢の緊迫化に伴うガス価格の高騰と、これから顕在化する恐れがあるガス不足の問題を踏まえると、少なくともガスに関して、EU は脱ロシア化の動きを見直さざるを得なくなる可能性が意識される。

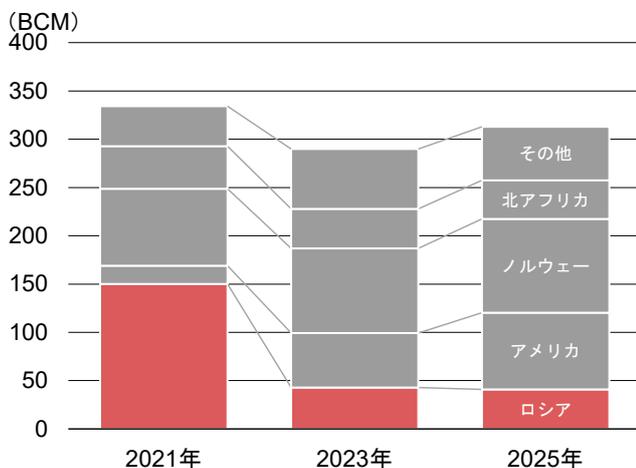
現在、EU が輸入するロシア産ガスの多くは、タンカーで運ぶ液化天然ガス(LNG)である。対して、パイプラインを通じて流入するロシア産ガスは、2025年以降はトルコ経由(トルコストリーム)に限定されている(図表 4)。EU は 2025 年 12 月、ロシア産ガスの輸入を 2027 年 10 月までに完全に禁止することで合意に達したばかりだが、その矢先にイラン情勢の緊迫化に伴うグローバルなガスショックが生じた。

2025 年 12 月の政治合意に従うなら、EU はロシア産 LNG の輸入を、短期契約の場合で 2026 年 4 月 25 日から、長期契約の場合で 2027 年 10 月 1 日から禁止することとなる。またパイプライン経由の輸入であれば、短期契約の場合で 2026 年 6 月 17 日から、長期契約の場合で 2027 年 10 月 1 日から禁止する。つまり、短期契約に基づくロシア産ガスの禁輸措置の発動は、もう目前に迫っている。

イラン情勢が早期に収束しても、需要家は既に来冬の需要期を見越して動いており、グローバルなガス需給はそれほど緩和しないだろう。そのため、EU がロシア産ガスの禁輸措置の発動を延期することも考えられる。しかし、EU が予定通りロシア産ガスの禁輸措置に踏み切れば、域内のガス価格が一段と上昇し、インフレが加速することが懸念される。この場合、今域内において落ち着いている反 EU 運動が再び勢いを増すだろう。

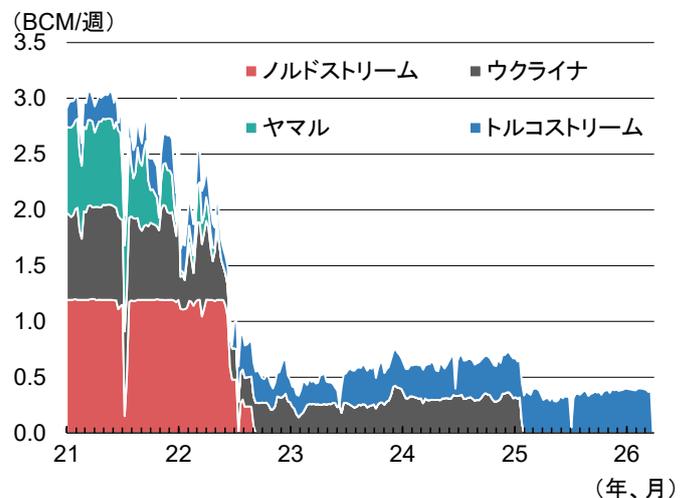
また EU の禁輸措置に伴いダブついたロシア産ガスが EU 以外の需要家にスムーズに供給されない限り、非ロシア産ガスの需給がタイト化するため、ガス価格のグローバルな上昇に弾みがつくことも懸念される。

図表3. EU の天然ガス輸入量の国別内訳の推移



(出所) 欧州理事会

図表4. EU にパイプライン経由で流入するロシア産ガス



(注) 週次。
(出所) Bruegel

3. 改めて問われる EU の脱ロシア化戦略の意義

EU 向けのガス輸出が激減したことで、ロシアは中国など他の国々へのガス輸出を強化した。しかし輸送能力に限界があるため、ロシアのガスは現状、ダブついていると考えられる。このダブついたガスを引き受けることが出来る存在は、ロシアとの間でパイプラインが結ばれている欧州だけである。ヤマル・パイプラインやウクライナルート¹を再稼働させれば、グローバルなガス需給の緩和に資するだろう。

しかし現実にはパイプラインを再稼働させるためには、政治的に高いハードルを乗り越える必要がある。その調整コストが大きいため、4 月に予定されているロシア産 LNG の禁輸措置の発動を延期することが、EU が取り得る現実的な手段となるだろう。対するロシアだが、EU が 4 月 25 日にロシア産 LNG の禁輸に踏み切ることを前提に、これまで EU 向けに出荷していた LNG を第三国との長期契約用にシフトさせるとの報道もある。

いずれにせよ、イラン情勢の緊迫化に伴い世界のエネルギー需給が混乱する中で、EU がガスの脱ロシア化を進めることは、ガス需給のグローバルな混乱に拍車をかける恐れがある。EU がガスの脱ロシア化のペースを見直すかどうかは、EU のみならず、世界のガス需給の安定を大きく左右する。対応の巧拙次第では、EU はその求心力を、域内のみならず世界的に低下させかねない。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。